

手稲駅の南口と北口を結び、南北のまちの架け橋となっている自由通路「あいくる」をご存じですか？

ここは、ただの通路ではなく、人々が行き交い、情報交流・活動発表のスペースとして、手稲のにぎわいの拠点としての役割があります。

今回は、「あいくる」が誕生するまでと「あいくる広場」の活用事例についてをご紹介します。

★自由通路「あいくる」ができるまで！

手稲区の「顔」であるJR手稲駅周辺の混雑が、まちづくりを進める上での大きな課題となっていました。平成5年（1993年）札幌市では、手稲駅周辺地区を地域中心核とし、これにふさわしい機能を持った魅力的な地域にするため、駅の南北をつなぐ自由通路の整備を行うこととしました。

JR北海道では、この事業に併せて、駅舎の高架化やホームの改良を行うこととしました。

★愛され親しまれる自由通路に！！

新たにつくられることとなった自由通路は、地域から愛され親しまれる施設とするため、住民の意見を取り入れながら進める「ワークショップ」方式で整備されることとなりました。

これは、いろいろな考えを持つ人々が協働して創造的なアイデアを出し合いながら計画していくというもので、札幌市が行う大規模施設の整備では初めての試みでした。

平成8年（1996年）公募により集まった25人の区民により、「手稲の新しいシンボルを作ろう」「体の不自由な方やお年寄りも安心して使えるように」「街の情報をいろいろ知ることができるようにしたい」「自由通路に親しめる名前を付けたい」など、さまざまな意見が出されました。

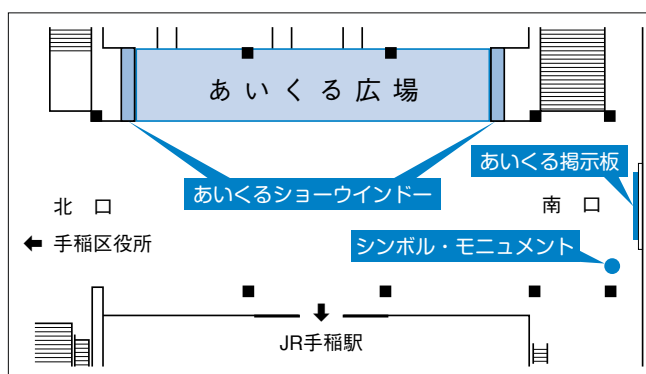
★憩いとにぎわいの場「あいくる」誕生！！！！

これらの提案を受けて建設の始まった自由通路。

オープンまで一年足らずとなった平成13年（2001年）7月には、公募により愛称が「会い」「愛」「来る」などの意味を込めて「あいくる」に決定し、平成14年（2002年）年5月には、完成記念式典が行われました。



▲「あいくる」のシンボル・モニュメント
「雪だるまをつくる人」



▲「あいくる」の平面図